



Sailing Ahead

2026 年 9 月

ニュースレター 9 月号へようこそ、私たちの国際コミュニティ全体からの最新ニュース、イベント、活動をお届けいたします。

この数ヶ月の間に成功を収めた 2 つの大規模な地域イベントがありました：豪州・ブリスベンで開催され、PIANC 本部長も出席した「PIANC APAC」、そしてエストニア・タリンで開催され、本部事務総長が参加した「NordPIANC」です。どちらのイベントも、PIANC 会員による貴重な意見交換や相互連携の機会となりました。

今後の大規模イベントの予定としては、インド・チェンナイで開催される「第 11 回 PIANC-COPEDEC」や、インドネシア・パレンバンで開催される「PIANC-Smart Rivers 2027」の準備を進めています。詳細情報の確認は各々のイベントのウェブサイトをご参照いただき、スケジュール確保をお願いします！

今月号では、各国部会やプラチナ・パートナーからのニュース、最近および今後の刊行物の情報に加え、「WG 270 内陸水路インフラ・施設への外的脅威による負の影響の抑止戦略 (Strategies to Prevent Negative Effects of External Threats in IW Infrastructure and Facilities)」のメンバー募集についても掲載されています。また、進行中の幾つかの PIANC 技術 WG の会合の開催状況、彼らの取り組みや最近の活動についても本ニュースレターで詳しくお読み下さい！

次回の執行委員会(ExCom)は 10 月末にパリにて開催、続いて 11 月にはオンラインでの評議会(Council)を予定しています。

最後に、PIANC では引き続き、「自然との共生」の理念を具現化するプロジェクトを募集しています。「自然との共生・協働賞(Working with Nature Award)」は、2028 年の国際航路会議(PIANC World Congress)」で授与される予定です。ぜひ皆さまのプロジェクトを応募し、世界に向けた成果披露の機会にしてください！

今月号をお楽しみいただき、世界中の PIANC 活動を通じて皆さまとのつながりを維持されることを楽しみにしています。

今後の PIANC イベントにご参加ください！

PIANC-IAPH ASIAN WEBINAR ONLINE
PIANC-IAPH アジアセミナー(ウェビナー)
2026 年 10 月 23 日(東京スタジオ)



ウェビナー・フライヤー(英文)はこちら！
(日本語版登録はこちらから！)

ウェビナー・フライヤー(日本語)は 10～11 頁参
照

PIANC Smart Rivers 2027
インドネシア・パレンバン
2027 年 6 月 14 日 - 18 日



会議ウェブサイトはこちら！

PIANC-Japan 事務局(注)

日本からの皆さまの積極的な論文ご投稿を
お願いいたします。

○論文アブストラクト(1 ページ)募集中！
(2026 年 12 月 1 日、アブストラクトメ切)
アブストラクト提出についてはこちら↓
<https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts/>

アブストラクト・テンプレートはこちら↓
<https://smartrivers2027indonesia.com/template-abstract/>

○参加登録(早期割引)開始
2026 年 12 月 1 日～

○募集論文テーマ一覧を含む会議ウェブサイト
(概要)の仮訳 12 頁～13 頁参照

PIANC COPEDEC** XI
インド・チェンナイ
2027 年 2 月 21 日 - 26 日

** COPEDEC: Conference on Coastal and Port Engineering in Developing Countries(開発途上国における海岸・港湾工学国際会議)



PIANC-Japan 事務局(注)
↑上の画像のクリックで COPEDEC XI のプロモ
ーションビデオを視聴できます

会議ウェブサイトはこちら！

PIANC YP-COM BIENNIAL TECHNICAL VISIT(BTV)**
スペイン・バルセロナ
2027 年 6 月 30 日 - 7 月 2 日

** PIANC 若手技術者委員会(YP-Com)が概ね隔年で世界各地にて開催

詳細情報(フライヤー)はこちら！

PIANC WwN 賞 2028 への応募はこちら

PIANC WwN 賞(自然との協働・共生賞) 2028 (PIANC WORKING WITH NATURE AWARD 2028)



※PIANC-Japan 事務局(注) 参考資料以下のとおり
[応募等に関連する本部ウェブサイト\(一部\)](#)
[の「仮訳」14 頁参照](#)

応募資格

自然との共生・協働(WwN: Working with Nature)の理念を具現化する水上交通インフラ・プロジェクトであれば、完了/継続案件にかかわらず応募の資格があります

応募方法

過去の受賞プロジェクトに関する情報の確認、及びプロジェクトの応募申請(提出)については、[PIANC Web サイト](#)をご参照ください。

応募のメリット

- ✓ 水上交通インフラにおける革新的かつエコフレンドリーな応募者のアプローチへの国際的な評価の獲得
- ✓ 応募者の持続可能な取組みのアピールにつながる
- ✓ 応募プロジェクトを先例とする他プロジェクトの範となる

応募プロジェクトが認定証(Certificate of Recognition)を獲得している場合は、2028 年 PIANC 世界航路会議(PIANC World Congress)において、本賞の候補となります。

PIANC WG からのニュース



[PIANC WG 263※の水路ガバナンスに関するドナウ川委員会との連携](#)

※WG 263 内陸水路のガバナンス改善のための主要要素とベストプラクティス (Key Elements and Best Practices to Improve the Governance of Inland Waterways)

*上記の捕捉記事の
[仮訳 15 頁参照](#)

[PIANC WG 264※ 中国・成都にて会合](#)

※WG 264 内陸水路の水工構造物管理の革新的なデジタル化 (Innovative Digitalisation Approaches for Managing Hydraulic Structures of Inland Waterways)



*上記の捕捉記事の[仮訳 15 頁参照](#)

実践におけるネイチャー・ポジティブ(自然再興)：豪州・ブリスベン開催の PIANC APAC 会合における WG 267*の活動

※WG 267 生態系の拡大における水上交通インフラの役割
(The Role of Waterborne Transport Infrastructure in Biodiversity Enhancement)



*上記の捕捉記事の[仮訳 16 頁～18 頁参照](#)

WG 271*のキックオフ会合を開催 (於 ベルギー・ブリュッセル)

※WG 271 内陸水路インフラ・施設の可航率(航行可能性)の評価ガイドライン(IW Guidelines for Navigation Availability Assessment)



*上記の捕捉記事の[仮訳 19 頁参照](#)

PIANC コミュニティからのニュース

各国部会、各国支部からの実施済または今後予定される活動を共有するニュース

PIANC 豪州・ニュージーランド部会からのニュース



- PIANC APAC (Asia Pacific Conference) 2026 - 大成功を収める！

*上記の捕捉記事の[仮訳 20 頁～24 頁参照](#)

PIANC エストニア部会からのニュース



- NordPIANC 2026 会合の開催により,PIANC コミュニティがタリンに集結！

*上記の捕捉記事の[仮訳 25 頁～26 頁参照](#)

PIANC ドイツ部会からのニュース



- 第 4 回 PIANC-HTG(独港湾技術協会)フォーラム開催(2026.9.17)

*上記の捕捉記事の[仮訳 27 頁～28 頁参照](#)

PIANC 英国部会からのニュース



- PIANC 英国部会 若手技術者セミナーを開催

*上記の捕捉記事の[仮訳 29 頁参照](#)

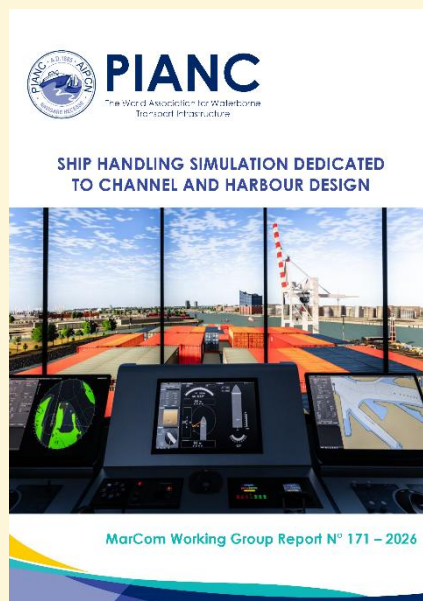
出版物

発刊中

以下の報告書は 2026 年 9 月 に発刊されています

※本部プレスリリースのダウンロードは、下記の報告書の表紙をクリックしてください。

- PIANC WG 171(海港委): 航路・港湾の計画・設計のための船舶航行シミュレーション
(Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design)



WG 171 報告書の刊行時の本部プレス
リリースの仮訳は [30 頁参照](#)

発刊予定

以下の報告書は、2026 年 10 月に発刊予定です。

- PIANC WG 243(海港委): コンテナターミナル舗装の持続可能性 -設計から供用終了まで
(Sustainability of Container Terminal Pavements – From Design to End-of-Life)

PIANC 新設 WG メンバーの応募受付中



WG 270 内陸水路インフラ・施設への外的脅威による負の影響の抑止戦略(Strategies to Prevent Negative Effects of External Threats in IW Infrastructures and Facilities)

この大変興味深い PIANC 新設 WG へのメンバーとして参加を希望される方を広く募集いたします！



ご関心のある方？

2026 年 10 月 31 日までに自身が所属する国内部会(日本部会(PIANC-Japan))へご連絡ください！



本 WG の実施要領(要旨)説明書 (Terms of Reference) は [こちら！](#)

開催予定のイベント

世界銀行レポート「港湾におけるサイバーセキュリティ：リスク管理からレジリエンスへの転換」を考察する PIANC ウェビナー



2026 年 10 月 6 日 12:00(欧州中央時間: CET)より、世界銀行の最新報告書「港湾におけるサイバーセキュリティ：リスク管理からレジリエンスへの転換」を深く掘り下げ、示唆に富む PIANC ウェビナーを開催します。ぜひご参加ください。

本ウェビナーでは、港湾の包括的環境・システム全体にまたがるサイバーセキュリティ政策、実務、及び導入時の障壁に関する世界的な現状を示し、以下の点に焦点を当てます。

- ・グローバルな調査から得られた主な知見
- ・港湾サイバーセキュリティ強化のための提言
- ・港湾および港湾関係者(ステークホルダー)への実務的な影響・示唆

- ・ PIANC 会員およびより広く海事コミュニティ全体への重要性・関連性

【講演者】

- [Sotiria Lagouvardou](#) 氏, 世界銀行(Transport Consultant, Transport & Logistics Global Practice)
- [Simona Sulikova](#) 氏, 世界銀行(Transport Consultant, Transport & Logistics Global Practice)

【世界銀行の報告書】

<https://www.worldbank.org/en/topic/transport/publication/cybersecurity-in-ports>

(デジタル化による)コネクティビティが一層拡大・強化している海事分野の将来に向け、港湾がどのようにしてサイバーレジリエンスを強化、より十分な準備を整えられるかを考察できるこの貴重な機会をぜひお見逃しなく。

詳細情報(フライヤー)は以下から！

<https://www.pianc.org/wp-content/uploads/2026/09/World-Bank-Cybersecurity-Webinar-Information-registration-form.pdf>.

PIANC 米国 第3回ウェビナー - 適応型マリーナのインフラ：成長、規制、及びレジリエンス(強靱性, 変化への対応力)のための計画

表題の PIANC 米国の第3回ウェビナーの参加登録は受付中です。

 日 時：2026 年 10 月 28 日(水)午後 2:00～3:00(米国東部夏時間/EDT)

 参加費：無料

 C P D : 1 PDH 単位

PIANC 米国は, PIANC レクリエーション港湾・水路委員会([Recreation Commission: RecCom](#))の協力のもとで, 2026 年シリーズの3回目となるウェビナー開催をご案内します。

本ウェビナーは, PIANC WG 149 「マリーナ設計ガイドライン(Guidelines for Marina Design)」の最新状況や, 以下の視点からマリーナの計画・設計における「適応型マリーナのインフラ」及び「実践的なアプローチ」に焦点を当てるものです。

- ・ 柔軟性(Flexible)
- ・ 未来志向(Future-oriented)
- ・ 運用, 環境, 社会, 技術上のニーズ変化に対する対応力(レジリエンス)

講師は, 近く発行予定の国際的なガイドラインに関する主要な最新情報, マリーナ計画や管理面における新たなトレンド, 今日の設計者・技術者・プランナー・運営者・ウォーターフロント専門家に関係する専門的な幾つかの話題を提供します。

マリーナ計画，海岸工学，水路インフラ，ウォーターフロント開発のいずれかの分野に携わる方々にとり，本ウェビナーは，マリーナ設計の未来に係る有意義な知見を得る機会です。

[参加登録はこちら！](#)

PIANC プラチナパートナーからのニュース

SFT 社(ShibataFenderTeam)，第 14 回アルゼンチン港湾工学会議のスポンサーに

2026 年 9 月上旬，SFT 社は，アルゼンチン・ブエノスアイレスにて開催の第 14 回アルゼンチン港湾工学会議(XIV Argentine Congress of Port Engineering)に参加，スポンサーを務めました。

本会合には，弊社を代表して現地代理人の [Juan Minvielle](#) 氏が出席し，アルゼンチンの海事セクター全体から参集した専門家等との知見の共有や，港湾工学における最新の発展状況についての議論を交わすとともに，業界内ネットワークを強化しました。

SFT 社は，最新情報の把握や積極的な関与，コミュニティ内での強固な関係維持に向けて，PIANC 本部や各国部会に提供していただく，このような貴重な機会を非常に重視しています。

[Angels Blasco](#)

Junior Marketing Manager, SFT

以下は PIANC のプラチナパートナーです：



ソーシャルメディアでPIANC をフォローしてください：



ニュースレターのご購読をご希望ですか？ メール設定は [こちらから](#)

PIANC 公式サイト：<https://www.pianc.org/>

PIANC 会員になるには（右記, 日本部会へご連絡を） info@pianc-jp.org

<https://www.pianc.org/join-pianc/>

PIANC-IAPH アジアセミナー2026 -港湾における脱炭素化- 日本語版フライヤー(1/2)

本ウェビナーの参加登録はこちらから <https://forms.gle/gnNPBqjPqQcMtrEC7>



共催

2026. 8. 28版

後援:
国土交通省
水産庁
(独)国際協力機構(JICA)

W·E·B·I·N·A·R

PIANC-IAPH アジアセミナー2026 -港湾における脱炭素化-

日時 2026年10月23日(金)15:30 - 18:00 (日本時間)

参加費: 無料 | 定員: 200名

使用言語: 英語 (日英同時通訳あり) | ウェビナー方式: Zoom

参加申込URL: <https://forms.gle/gnNPBqjPqQcMtrEC7>

本年10月に「PIANC - IAPHアジアセミナー (第6回PIANCアジアセミナー)」を開催しますのでご案内いたします。研究者や技術者の経験、知見及び最新技術を共有する場として成功を収めてきた過去5回のセミナー実績も踏まえ、今年は姉妹協会であるIAPHとの共同開催とし、テーマを「港湾における脱炭素化」としました。インド、インドネシア、日本の著名な講師陣をお迎えし、「ネットゼロ(温室効果ガス排出実質ゼロ)」の実現に向けた様々な課題についてご講演いただきます。この喫緊かつ重要なテーマに関心をお持ちのすべての皆様のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム(仮) 15:30 - 18:00 (日本時間) モデレーター: PIANC環境委員会 日本委員 中崎剛

- 15:30 **開会(主催者挨拶):** PIANC副会長 栗山善昭
IAPH副会長 元野一生
- 15:35 **開会挨拶:** 国土交通省 大臣官房
技術参事官 森橋真
- 15:40 **PIANC本部からのビデオメッセージ:**
PIANC会長 フランシスコ・エステバン・レフラー
- 15:45 **講演1: カーボンニュートラル実現に向けた
港湾の気候変動対策**
神戸大学大学院海事科学研究科 杉村佳寿 氏
- 16:10 **講演2: グリーンな地平への舵取り: エネルギー
ハブとしての港湾の再定義 - DPA*の展望**
インド・ディーンダヤル港湾局(DPA)
ニラブハラ・ダスグプタ氏 *旧カンドラ港湾公社
- 16:35 **講演3: 港湾の脱炭素化に関する評価 - 脱炭素化
ギャップの克服(インドネシア港湾の事例)**
(国営)インドネシア船級協会
ムハンマド・ライハン氏
- 17:00 **講演4: カーボンニュートラルのためのブルーカーボン生態系の活用**
港湾空港技術研究所(PARI) 渡辺謙太 氏
- 17:25 **質疑応答**
- 17:50 **閉会挨拶:** 水産庁 漁港漁場整備部 事業課長 中村克彦



参加申込URL: <https://forms.gle/gnNPBqjPqQcMtrEC7>
申込期限: 10月16日

QRコード(右)からも聴講申込可能



土木学会CPDプログラム
認定番号JSCE26-1103
2.2単位

講師紹介 (講演順)



杉村 佳寿 氏 (日本)

神戸大学大学院海事科学研究科 教授
東京大学において工学博士号を取得

1999年に運輸省(現 国土交通省)入省、主に中央省庁(港湾、航空、環境部局)の勤務を経て、2024年4月から神戸大学に勤務。25年間にわたる幅広い分野の行政経験も活かし、グリーントランスフォーメーション(GX)やデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進などの現代の社会的ニーズも取り込みながら、港湾、空港、国際物流、及び環境政策を専門とする研究を進めている。

ニラブハラ・ダスグプタ 氏 (インド)

ディーンダヤル港湾局*(DPA)副会長 *旧カンドラ港湾公社

ニラブハラ・ダスグプタ氏は、2025年7月に現職(DPA副会長)に就任。インド国税庁2008年入庁の幹部職員として、インフラ・ガバナンスや持続可能な開発における広範な専門知識をDPAに導入している。同氏のリーダーシップの下、DPAはインド最大の港湾としての地位を確立し、脱炭素化の戦略にも合致するインド主要港における先駆的な取り組みを主導している。インド初のメガワット級の完全国産グリーン水素プラント建設や、陸上から船舶へのメタノール燃料供給事業などである。同氏は、インドの港湾を世界で最も効率的かつデジタル化され、環境面でも持続可能な水上交通のゲートウェイに位置づけることに尽力している



ムハンマド・ライハン 氏 (インドネシア)

(国営)インドネシア船級協会 グリーン&スマートポート監査役

2023年にBKIに入社。グリーン&スマートポート監査役として、サステナビリティ(持続可能性)とデジタル化の基準に基づく港湾施設の統合評価において、豊富な現場経験を有する。厳格な監査手法と、IoT、リアルタイムモニタリング、デジタルプラットフォーム等のスマート技術が水上交通のオペレーションにおいて環境面からのパフォーマンスをどのように向上させるかという実践的な理解を兼ね備えた「港湾の脱炭素化」の評価に取り組んでいる。

渡辺 謙太 氏 (日本)

(国研)海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域 上席研究官
京都大学において博士号(農業)を取得

2012年から港湾空港技術研究所(PARI)にて勤務。現在は、植生のある沿岸生態系の能力(機能)の定量化や、これら機能の基盤となる生物地球化学的及び生態学的メカニズムに関する研究に取り組んでいる。「国連・海洋科学の10年」下の「ブルーカーボンのための世界海洋10年計画(GO-BC)」科学技術WGメンバーの他、PIANC環境委員会(EnviCom)WG 256「ブルーカーボンの理解醸成-実践ガイド」日本委員も務めている。



主催(共催)者代表



栗山 善昭
PIANC副会長(アジア、大洋州担当)



元野 一生
IAPH副会長(南アジア、西アジア、東アジア及び中東担当)



中崎 剛
PIANC環境委員会
日本委員

モデレーター

問い合わせ先、CPD関連の連絡事項

・問い合わせ先:

PIANC Japan 担当: 米田・川田

TEL: 03-5226-0357

e-mail: yoneda@pianc-jp.org
mkawada@pianc-jp.org

・土木学会認定CPDプログラム受講証明
ご希望の皆さまへ

認定番号JSCE26-1103, 2.2単位

*証明書ご希望者には、受講後メール連絡いたします。

*システム記録によるセミナー視聴状況の確認をします。

*受講後の所見(学びや気付き)の提出が必要(100文字程度以上)。

*土木学会以外の団体への提出方法等は、当該団体への事前確認をお願いします(他団体運営のCPD制度の内容については回答いたしかねます)。



QRコード(右)から聴講申込可能。
申込登録者には後日、ZOOMウェビナーURLを送付します。



PIANC Smart Rivers 2027 会議ウェブサイトの概要(仮訳)

英語版サイトはこちら→ [Smart Rivers 2027](https://smartrivers2027indonesia.com/)

開催までの概略スケジュール

2026 年 5 月 20 日: **論文アブストラクト(1 ページ以内)募集開始**

*アブストラクトについてはこちら→<https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts/>

*同上-テンプレートはこちら →<https://smartrivers2027indonesia.com/template-abstract/>

2026 年 12 月 1 日: **参加登録(早期割引分)受付開始**

2026 年 12 月 1 日: 論文アブストラクト(1 ページ以内)提出締切

2027 年 1 月 29 日: **論文アブストラクト受理通知**

2027 年 2 月 1 日: **参加登録(早期割引分)締切**

2027 年 3 月 19 日: **論文提出締切**

2027 年 4 月 29 日: **参加登録締切**

2027 年 6 月 14 日: **Smart Rivers 2027 開催**

***開催地:インドネシア 南スマトラ州パレンバン市**

参加登録料

12/1 より
受付開始

・ 通常料金 参加登録	950 米ドル
・ 早期割引 参加登録	850 米ドル(2027 年 2 月 1 日まで)
・ PIANC 会員早期割引登録	800 米ドル(- / -)
・ ASEAN 加盟国からの参加登録	500 米ドル
・ インドネシアからの参加登録	100 米ドル
・ インドネシア学生	50 米ドル
・ PIANC AGA*(年次総会)参加登録	300 米ドル
* Smart Rivers 2027 の前日開催予定	
・ ショートコース(講座)参加費	無料

会議テーマ(1/2)

同上参照→ <https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts/>

Waterway Infrastructure (水路等インフラ) -Navigation Improvements (港湾・水路の改良) -Navigation Structures (港湾・水路構造物) -Ports, Harbors, Multimodal Terminals (港湾, 複合一貫輸送ターミナル) -Infrastructure Assessments & Monitoring (インフラの(健全度等)評価及びモニタリング) -Innovative Materials (革新的な材料) -Natural & Nature-based Infrastructure (自然及び自然を活用したインフラ)	Smart Shipping & Waterways (スマート水運と水路) -E-navigation, River Information Services (電子航行, 河川情報サービス) -Autonomous / Automated Sailing and Smart Vessels (自律/自動運航とスマート船舶) -Digital Twins, Virtual & Augmented Reality, & Artificial Intelligence (デジタルツイン, 仮想現実・拡張現実と AI)
Climate Change & Community (気候変動とコミュニティ) -Navigation Improvements (港湾・水路の改良) -Navigation Structures (港湾・水路構造物) -Ports, Harbors, Multimodal Terminals (港湾, 複合一貫輸送ターミナル) -Infrastructure Assessments & Monitoring (インフラの(健全度等)評価及びモニタリング) -Innovative Materials (革新的な材料) -Natural & Nature-based Infrastructure (自然及び自然を活用したインフラ)	Rivers & River System Management (河川, 水系管理) -Asset Management (アセットマネジメント) -Dredging, Beneficial Use, and Regional Sediment Management (浚渫, (浚渫土)有効活用, 域内堆積土の 管理) -Multi-use Waterways (水路の多目的利用) -Safety and Security (安全とセキュリティ) -Resilient Rivers and Waterways (強靱な河川・水路) -Ecologic Restoration (生態系の再生) -River Recreation and Fisheries (河川レクリエーシ ョンと漁業) -Basin Scale Modelling and Predictions (流域規模のモデル化と予測)

会議テーマ(2/2)

Logistics (ロジスティクス)

- Riverine Ports (河川港)
- Multi-Modal Transport (複合一貫輸送)
- Intermodal Transport: Containerization of Inland Waterways (インターモーダル輸送: 内陸水運のコンテナ化)
- Innovations, Containers on Barge (イノベーション, コンテナ・バージ輸送)

Additional IW (Inland Waterway) Topics (追加的な内陸水路のトピックス)

- Public-Private Partnership (官民連携(PPP)) - Waterways and National Security (水路と安全保障)
- Economic Modelling and Co-benefits (経済モデルと共通便益)
- Finance, Investment, and Trade (資金調達, 投資, (ビジネス)市場展開)
- Institutional and Regulatory Perspective (制度面・規制面からの視点)
- PIANC WGs (in Relation with Conference Topics) (PIANC のWG(本会議のテーマ・トピックスの関連WG))

概略プログラム(仮) 英語版サイトはこちら→[Program – Smart Rivers 2027](#)

6/11(金)～	・PIANC 執行委員会(ExCom)
6/12(土)	・PIANC 評議会(Council) ・PIANC 技術委員会等(内陸水路委(InCom), 財務委(FinCom)等)
6/13(日)	・PIANC 年次総会(AGA)
6/14(月)	・Smart Rivers 2027 本会議前日ショートコース(講座) ・UN-ESCAP, メコン川ワークショップ ・Smart Rivers 2027 本会議参加受付 ・レセプション(夜) ・展示ブース等設営
6/15(火)	・Smart Rivers 2027 開会式 ・全体セッション ・技術セッション 1a, 1b ・カジュアル全体交流会(夜)
6/16(水)	・技術セッション 2a, 2b, 3a, 3b ・ガラディナー(夜)
6/17(木)	・基調講演(UN-ESCAP, PIANC 内陸水路委(InCom)) ・技術セッション 4a, 4b ・Smart Rivers 2027 閉会式 ・若手技術者(YP)ネットワーキング等(夜)
6/18(金)	・テクニカルツアー
6/19(土)	・文化交流ツアー

※各会合・セッション等の開催場所: Novotel Hotel

PIANC 自然との協働・共生賞 (Working with Nature (WwN) Award)

「自然との協働・共生」は、持続可能な港湾・水路インフラプロジェクトにおける積極的かつ統合的アプローチを推進するPIANCの国際的イニシアティブです。2008年以降、世界中で「自然との協働・共生」の理念を採り入れた数多くの港湾・水路インフラプロジェクトの開発がされてきました。PIANCはこうしたプロジェクトを表彰、認定証を授与することでその取り組みを称えたいと考えています。



WwNのフレームワーク(PIANC WG176 報告書第4章(無償・公開部分)より抜粋)

WwNでは、港湾・水路の開発、拡張、成長に係るプロジェクト目標の達成のため、設計段階にてサイト固有の生態系特性の考慮を推奨しています。理想的には、WwNでは設計着手前からのプロジェクト目標の策定への組み込みを含んだ完全統合されたアプローチを必要とします。WwNはプロジェクトのほぼ全段階において実施可能ですが、構想・設計・実施の初期段階にて導入することが環境に好影響をもたらす機会として有望です。設計プロセスの後期段階でのWwNの概念の導入はより大きな労力を必要とし、プロジェクト着手時ほどの効果は期待できない場合があります。

2011年のPIANCポジションペーパーで確立したアプローチと、WG報告書によりプロジェクトのライフサイクルは、下図のステップで構成されます。



自然との協働・共生賞(2019-2024 期間)受賞者(PIANC 本部ウェブサイト発表資料より抜粋)

- 1位: 浚渫土の有効活用と生態系ツールによる生息地の回復(Recovery of Habitats Beneficial Use of Dredged Materials and Bio-tools), Huelva 港湾管理者, スペイン
- 2位: ハンコック郡・干潟生息域海岸とパール川維持浚渫(Hancock County Marsh Living Shoreline and Pearl River Maintenance Dredging), Anchor QEA Inc. 社, 米国
- 3位: マデイラ川航行改善計画調査(Madeira River Navigation Improvement Planning Study), 米国陸軍工兵隊・ブラジル

PIANC WG 263*の水路ガバナンスに関するドナウ川委員会との連携



*WG 263 内陸水路のガバナンス改善のための主要要素とベストプラクティス (Key Elements and Best Practices to Improve the Governance of Inland Waterways)

9月のInCom(内陸水路委)会合(於 ブダペスト)に続いて、PIANC WG 263*では、ドナウ川委員会の General Director の Manfred Seitz 氏と会合を持ち、内陸水路のガバナンスの枠組みに関する先駆的なベンチマーク調査の結果を提示した。この場では、制度設計、規制の枠組み、及び運用面の調整メカニズムが、主要な水路コリドー(回廊)の競争力や持続可能性にどのように影響を与えるかが示された。これらの知見は、ドナウ川固有の複数国にまたがるガバナンスモデルに直接適用可能である。

今回の意見交換は、現在分析段階にある本 WG の世界的な調査にとって極めて重要な局面である(米州、欧州、アジア太平洋地域の国々や委員会から本調査への回答あり)。ドナウ川委員会の参画により、国境を越える水路の管理に関するプロジェクトの比較の視点が一層強化される。

Eduardo Pessoa de Queiroz
 ANTAQ/Brazil

PIANC WG 264* 中国・成都にて会合

*WG 264 内陸水路の水工構造物管理の革新的なデジタル化(Innovative Digitalisation Approaches for Managing Hydraulic Structures of Inland Waterways)



2026年7月、内陸水路の構造物の管理における革新的なデジタル化アプローチをテーマとするPIANC WG 264は、中国・成都で会合を開催した。本会合には、InCom(内陸水路委)副委員長 Gensheng Zhao 氏も参加し、WG メンバーは同氏を歓迎した。

今回の会合のハイライトは、中国における様々なデジタル化への取り組みを直接学ぶ機会を得たことである。現地の代表者から、BIMからGISまでIoT活用によるモニタリング、デジタルツイン、スマート水路管理などの実用的な事例が共有された。討議を通じて、中国では既に多岐にわたる分野でのデジタル技術の適用が示された。同時に、多くの国々に共通する課題も確認された。それらは、組織やプロジェクト間でのデータ連携、共通規格の策定、データ品質の担保、及び既設構造物や過去の蓄積データの統合などである。

技術面の意見交換にとどまらず、WGではPIANC報告書の策定に向けた貴重な機会を得た。

Daniela Schenk
 WG 264 議長

実践におけるネイチャー・ポジティブ(自然再興)：豪州・ブリスベン開催の PIANC APAC 会合における WG 267*の活動

*WG 267 生態系の拡大における水上交通インフラの役割(The Role of Waterborne Transport Infrastructure in Biodiversity Enhancement)

2026 年 8 月の最終週、WG 267 メンバーは豪州・ブリスベンに参集し、WG 会合、PIANC APAC(アジア・太平洋会合)及びブリスベン港の現場視察など、さまざまな活動を共に実施した。



当該週のスタートとして月曜日に WG 会合を開催、その場では、進捗状況のレビュー、港湾・水路インフラにおいて、生物多様性の拡大・向上をどのように適用するかについて、WG 報告書により適切に反映させるため、今後のアプローチと報告書の構成をさらに見直した。議論の主な焦点は、ネイチャー・ポジティブという成果の達成という観点における「生物多様性の拡大・向上(biodiversity enhancement)」の基本的な定義を補強することに当てられた。

この点については、WG として同じビジョンを共有し、このガイドラインや報告書の利用者が「単なる影響への対処や、影響を最小限に抑制すること」だけでなく、「ネットゲイン(純増)を目指すこと」により自然にプラスの貢献を促すために重要なことであった。

会合の締めくくりとして、ネイチャー・ポジティブへの大志を実行可能なステップへと移すためのフローチャートに係るブレインストーミングを実施した。

WG メンバーは、こうしたアプローチを 1 回限りの直線的な作業ではなく、適応的かつ反復的なプロセスとして捉えている。現時点では、初稿段階であり、今後さらに多くのケーススタディを収集しつつ、このプロセスのブラッシュアップを続ける予定である。

皆さまからの「生物多様性の拡大・向上の要素を含むプロジェクト」の情報について、ご提供ください。本報告書・ガイドラインにとり、価値あるプロジェクト事例や教訓となる可能性があります。

翌日の火曜日から木曜日にかけては、PIANC アジア太平洋会合(APAC)に出席し、本WGの最新情報(概要)の共有や、WGメンバーが各々の所属組織で取り組んでいる様々な調査研究、プロジェクト、枠組みやツールを紹介する貴重な機会を得られた(以下のとおり)。

- ・大規模な沿岸開発・インフラプロジェクトにおける影響回避・緩和・最小化の優先順位 (Mitigation hierarchy for large-scale coastal development and infrastructure projects): **Dinda Mazedra 氏**
- ・ D-Eco Impact: 時空間的な生態系影響評価ツール(D-Eco Impact: A tool for spatio-temporal ecological impact assessments): **Natasha Flores 氏**
- ・ 明日を築く: 生物多様性のための積層造形(3D プリンティング)と自然に倣った設計に関するワークショップの総括 (Building Tomorrow: Workshop Synthesis on Additive Manufacturing and Nature-Inspired Design for Biodiversity): **Alyssa Calomeni-Eck 氏**
- ・ 稼働中の臨海部施設の光環境の再生・改善: 港湾設計における生態学的な波及効果 (Re-introducing light to working waterfronts: Ecological implications for port design): **Katherine Dafforn 氏**
- ・ 海岸デザインにおける自然と地域社会の経済的な統合のための「5つの大きなアイデア」 (5 BIG ideas for economically integrating nature and community in coastal design): **Matthew Allen 氏**
- ・ 生命を育む港(リビング・ポート): グレーインフラのグリーン化における機会と課題 (Living Ports: opportunities and challenges for greening grey infrastructure): **Melanie Bishop 氏**
- ・ 「浚渫土の有効利用」枠組みの適用から得られた教訓 (Lessons Learnt from the Application of Dredge Material Beneficial Use Framework): **Bradley Smith 氏**
- ・ 港湾開発と持続可能性目標の整合: 西港の藻場再生戦略 (Aligning Port Development with Sustainability Goals: The Westport Seagrass Restoration Strategy): **Michael Brooker 氏**

APAC 会合の本WGのセッションは、Anabel Dyson 氏と Matthew Allen 氏が共同議長を務めたワークショップで総括された。この場では、参加者からの港湾や水路インフラにおける生物多様性の拡大・向上をどのように実践するか「大きなアイデア」を集めた。ただし、一つだ



けルール(ひねり)があり、「いかなる制約もない条件で考える」でした!本ワークショップでは、自然再興となる港湾・水路インフラのための創造的かつ刺激的なアイデアが数多く生まれた。これらの発表を詳しく知りたい方は、お気軽にお問い合わせください。

金曜日にブリスベン港視察を行い、同港では、一連のプロジェクトを通じた生物多様性の拡大・

向上を実践している。単一のアプローチに頼るのではなく、生態学的なつながりを回復するための既設インフラ改良、シギ・チドリ類の生息地の積極的な管理、上流部における侵食や堆積土管理、そして貝類礁の再生などがプロジェクトに含まれている。特に以下の4つのプロジェクトが実践中のアプローチの多様性を明確に示していた。

- **北港エリア再開放事業**(Port North Offset)は、生息地の大規模な再構築の実施ではなく、当該エリアを再び開放、海水交換の回復、潮汐による魚類のより自由な移動や、周辺エリアの海水滞留の軽減による改善を実施。
- **ホワイト島生物多様性事業**(White Island Biodiversity Project)は、広範な港湾環境の中で、シギ・チドリ類の生息地の保全・改良に焦点を当てている。同島に存在する claypan(粘土硬盤上の塩性湿地)エリアは、すでに鳥類にとり貴重な生息地であるが、その生態学的価値を低下させる様々な圧力に曝されている。ブリスベン港では、絶滅危惧種やそれに準じる種を含む約 15,000 羽の渡り鳥(シギ・チドリ類)の生息地を支えている。本プロジェクトから得られた重要な教訓は、生物多様性の拡大・向上には、必ずしも新たな生息地を創出する必要はないということである。本事例では、管理側が既存のランドスケープ特性の価値を認識、その機能の制約となる特定の要因(圧力)に対応した。
- **レイドリー川事業**(Laidley Creek Project)は、港湾の「上流部」での対策実施という「異なるアプローチ」を示すものである。大規模な洪水の発生により、大量の土砂が流出、下流のブリスベン港やモートン湾へと運搬される。これらの土砂の航路エリアへの堆積により浚渫や土砂管理の必要性が増すことになるが、土砂が港湾に到達してからの対策だけでなく、ブリスベン港ではレイドリー川において、上流部での河岸安定化のパイロット事業を実施したもの。
- **貝類礁の再生事業**(Shellfish reef restoration)も別の事例であり、ブリスベン港では地域社会と協働してモートン湾の生息地再生に取り組んでいる。貝類礁は立体的・構造的に複雑な生息環境を形成し、魚類や無脊椎動物のコミュニティを支え、より広範囲に河口域の生態系機能に寄与する。本再生事業には、レストランの協力で廃棄される貝殻を回収、礁の再生に活用する活動も含まれる。回収された貝殻は、貝類が定着して礁を形成するための物理的な土台となる。その後、修復されたエリアへの幼生を放流や、その他の支援の実施で一層の成長を促進する。

WG 267 にとり、素晴らしく刺激的な1週間であった。私たちは自然再興(ネイチャー・ポジティブ)な港湾・水路インフラの実現に向けて、ガイドラインの策定作業を進めていきます。

WG を代表して、今回会合を主催いただいた Haskoning 社の Stuart Bettington 氏、素晴らしい APAC 会合を企画いただいた PIANC APAC 委員会、現地視察を企画いただいた Hydrobiology 社(SRL グループ)の Shirley Dawe 氏、ブリスベン港の Craig Wilson 氏、全体会合や現地視察の準備をご支援いただいた Ron Cox 氏と Adam van der Beeke 氏、及び多くの同僚の皆さまに心より感謝申し上げます。

Dinda Mazedra(Boskalis社)

WG 267 議長

WG 271*のキックオフ会合を開催(於 ベルギー・ブリュッセル)

*WG 271 内陸水路インフラ・施設の可航率(航行可能性)の評価ガイドライン(IW Guidelines for Navigation Availability Assessment)

内陸水路の航行可能性評価のためのガイドライン策定を目指した内陸水路委(InCom) WG 271のキックオフ会合が、2026年9月23日にベルギー・ブリュッセルのPIANC本部で開催された。

当日は世界各国の専門家が参集し、知見の共有とともに、航行可能性評価に関する実用的なガイドラインの作成に向けた協働作業が始まりました。



左写真:WG 271 キックオフ会合の参加メンバー
(於 PIANC 本部)

Akram Soliman Elselmy
WG 271

PIANC APAC (Asia Pacific Conference) 2026 – 大成功を収める！

本記事(仮訳版)の写真は PIANC AU-NZ 部会の Daniel Turner 氏の撮影のものです

8月25日～27日、ブリスベンで開催された PIANC APAC 2026 には 460 名の参加者があった。オーストラリアの全ての州・準州からの参加者に加えて、海外 17 カ国・地域(ベルギー、ブラジル、フィジー、フィンランド、ドイツ、香港、日本、ケニア、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、パプアニューギニア、フィリピン、シンガポール、ソロモン諸島、英国、米国)からの 63 名の出席者があった。



本会合について、参加者より「つながりと共有」「非常に有益で視野が広がる」「どの場所でも参加者が交流・知識を共有」「モチベーションの高まり」「有益で洞察にあふれていた」「多くの学び、学び、学びの連続」だった！」などの多くの様々な声があった。

国内組織委員会委員長の Stuart Bettington 氏は「PIANC 会員の強みを本当に実感！」と述べた(こちらの [3 分間の動画](#) を参照)。

確かな効果をもたらし、大成功となった会議に関わった全ての方々にお祝いと感謝を申し上げます。本イベントは、オセアニア及び、広くアジア太平洋地域における「つながりと共有」というテーマを真に具現化し、簡潔なメッセージ「共に手を取り合い、より良い未来を(we are better together)」を補強するものとなった。



ツアーとウェルカムレセプション

ブリスベンでの第 1 日目は、3つの素晴らしいテクニカルツアーを催行し、その後、Arup 社の全面的な協賛により、ブリスベン・コンベンション&エキシビション・センターにて盛大なウェルカムレセプションが開催されました。

・ ツアー I：ブリスベン港 & Patrick AutoStrad™ (自動化コンテナ搬送システム)

本ツアーでは、クイーンズランド州最大の複合貨物港湾の舞台裏の視察、生産性、安全性、強靱性を向上させつつ、将来需要に対応するために港湾をどのように進化させるのかの紹介があった。参加者全員にとり大きなハイライトとなった。

・ ツアー2：サウスバンク & ブリスベン川 CityCat(水上バス)ツアー

船上視察により、ブリスベン川の美しさと現在も続いている洪水対策の取り組み、河岸に導入されているマングローブや自然を活用した解決策(Nature-based Solutions)の事例がハイライトされた。

・ ツアー3：サウスバンク & クイーンズランド海事博物館

Ollie Poynter 氏の案内による本ウォーキングツアーでは、歴史的な South Brisbane Dry Dock, フリゲート艦 HMAS Diamantina 号を含み、クイーンズランド州の海事産業を形成した人々、船舶及びインフラ等ブリスベンの海の歴史遺産を探索した。



ツアーの詳しい情報や写真は、以下の LinkedIn を参照のこと。

<https://www.linkedin.com/feed/update/urn:li:activity:7498012131053924352>

基調講演

美しい歓迎の歌とともに、ブリスベンに私たちを温かく迎え入れていただいたことに対し、地元 Turrbal の代表 Refiti Tovi 氏に対し、深く感謝申し上げます。

PIANC 豪州・ニュージーランド(AU-NZ)部会の会長 Luke Campbell 氏、PIANC 本部長 Francisco Esteban Lefler 氏による開会宣言の中で、両氏は、PIANC 豪州・ニュージーランド部会の世界最大級の規模の部会としての強み、多様なアジア太平洋およびオセアニア地域からの幅広い視点を持ち寄る価値を強調し「共に手を取り合い、より良い未来を(we are better together)」を語った。

本会合では2つの基調講演が行われた。水曜日に OMC International 社の Giles Lesser 氏と西オーストラリア州 Dampier の Marine Pilot の John Clarke 氏による「つながりの構築:太平洋地域におけるパイロット業務の高度化(Building Connection: Elevating Pilotage in the Pacific Region)」と題した講演が行われた。

木曜日は、ジョージア大学教授、PIANC 環境委員会(EnviCom)前委員長でもある Todd Bridges 教授から「自然再興(ネイチャー・ポジティブ)なインフラと強靱な港湾に向けた変革の牽引(Leading Transformation for Nature-Positive Infrastructure and Resilient Ports)」と題した基調講演があった。本講演は[録画](#)(←こちら参照)があり、[PIANC AU-NZ 部会の YouTube チャンネル](#)からも視聴可能。



会議論文およびプレゼンテーション

APAC 2026 プログラムでは、9つのテーマにわたり関係業界および研究者による142件のプレゼンテーションがあった。

(以下、論文発表件数の多い順に記載)

- 港湾計画及び港湾工学 (52 件)
- 自然との共生・協働(Working with Nature), 環境及び生態系サービス (25 件)
- 新興国・途上国における海事・港湾分野の開発 (15 件)
- 港湾における脱炭素・クリーンエネルギーおよび気候変動への適応 (15 件)
- 港湾の運営および管理 (14 件)
- 技術革新およびデジタル化の進展 (14 件)
- 浚渫及び埋立 (7 件)

プログラムは [こちらから](#) 参照可能。



議論された PIANC WG テーマ

本会合では、PIANC の各 WG が作成した刊行物や、現在 WG 作業が進行中の以下のテーマについて議論が行われた。

- MarCom(海港委)WG 211: PIANC 防舷材 2024(PIANC Fender Guidelines 2024)
- EnviCom(環境委)WG 214: 持続可能な水上交通インフラ・プロジェクトの浚渫土砂の有効活用(Beneficial Use for Sustainable Waterborne Transport Infrastructure Projects)
- RecCom(レクリエーション港湾・水路委)WG 254: スーパーヨット・マリーナ・ガイドラインの改訂(Update of Superyacht Marina Guidelines)
- MarCom(海港委)WG 261: 海上ドライ・バルク貨物ターミナルの設計原則の改訂(An Update to Design Principles for Dry Bulk Marine Terminals)
- EnviCom(環境委)WG 267: 生態系の拡大における水上交通インフラの役割(The Role of Waterborne Transport Infrastructure in Biodiversity Enhancement)
- EnviCom(環境委)WG 274: 持続可能な水上交通インフラにおける(浚渫土の)薄層覆土(敷設)の実践ガイド(A Practical Guide for Applying Thin Layer Placement Approaches for Sustainable Water Transport Infrastructure)

特に、新設の WG 267「生態系の拡大における WTI の役割」は、8編のプレゼンとワークショップ1件を実施、大きな存在感を示した。WG 267 メンバーは、今回の APEC 会合に合わせて WG 会合の開催地にブリスベンを選定し、各々の専門知識とさらなる知見をコミュニティと共有した。

PIANC APAC 各賞

8月27日(木)開催のディナー及び授賞式をもって、2026年PIANC APAC会合は閉幕した。知識の共有、協働、つながりに満ちた素晴らしい数日間の締めくくりとなった。受賞者の皆さまに対し心よりお祝い申し上げます。



•PIANC APAC Author Award(論文賞)– [Aidan Lewis](#) 氏
同氏は、タスマニア港湾公社([TasPorts](#))のテクニカルサービスマネージャーです。
論文タイトル: タスマニア港における重大な係留リスクの管理(Managing Critical Mooring Risks at TasPorts)

•PIANC APAC Young Author Award(若手論文賞) –[Edwin Swierstra](#) 氏 同氏は、ブリスベンの [Aurecon](#) 社の海洋構造物担当シニアエンジニアです。
論文タイトル: ルシンダ・ターミナルにおける栈橋ベントの腐食の最適化補修(Jetty Bent Corrosion Repair Optimisation at Lucinda Bulk Sugar Terminal)



•PIANC APAC Lifetime Achievement Award(功労賞)– [Greg Britton](#) 氏。2026年の同賞は、沿岸・海洋工学分野への傑出したかつ持続的な貢献を称えて、Greg Britton氏に授与されました。同氏は、Haskoning Australia社のテクニカルディレクター、PIANC 豪州・ニュージーランド(AU-NZ)部会の理事会メンバーとして、コミュニティへの多大な貢献をしています。

•PIANC APAC Contribution Award(貢献賞) –[Peter Engelen](#) 氏。PIANC 豪州・ニュージーランド(AU-NZ)部会の理事会副議長を務める同氏は、広報・会員連携・プロモーションの統括を通じ、PIANC AU-NZ 部会の管理運営に多大な貢献をしています。同氏は、ニューサウスウェールズ州港湾会社([NSW Ports](#))のゼネラルインフラストラクチャマネージャーです。



※上記の各賞に関する詳細情報は [こちらから!](#)

Peter Fountain Award

[Peter Fountain 氏\(1946~2021 年\)](#)は、PIANC 豪州・ニュージーランド(AU-NZ)部会の長年のメンバーであり、数十年間にわたりオーストラリアの Maunsell/AECOM 社の海洋工学部門を率いた人物です。2024年、彼のご家族はPIANC AU-NZ 部会と共同で「Peter Fountain 記念フェローシップ基金」を設立、同基金による豪州・ニュージーランドの工学生がPIANC AU-NZ 部会の会合への参加、港湾・海洋工学の分野での将来のキャリア形成の支援を目的としています。

2026 年の受賞者:

- Ashvin Balaraman 氏, BE Civil Hons student, UNSW Civil and Environmental Engineering, UNSW Sydney(ニューサウスウェールズ大学)
- Milo Gruwez 氏, BE Civil student, University of Wollongong & U/Grad Engineer(ウロンゴン大学, Moffat & Nichol 社インターン)
- Isabel Upson 氏, BE Environmental Engineering student, The University of Western Australia(西オーストラリア大学)
- Ankia Van Zyl 氏, BE Civil & Environmental Engineering student, University of Auckland(オークランド大学)



多大なる感謝を込めて！

Stuart Bettington 氏以下の国内組織委員会のメンバーに心より感謝申し上げます：

Mark Bennet 氏, Luke Campbell 氏, Ron Cox 氏, Neil Lawson 氏, Sam Mazaheri 氏, Arne Nilsen 氏, Russell Perry 氏, Harvinder Singh 氏, Paul Weston, 及び若手技術者 (YP) メンバーの Oliver(Ollie) Poynter 氏, Jess Wood 氏



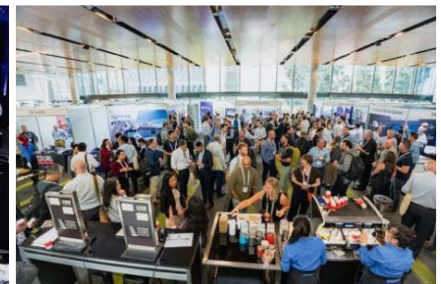
もちろん, Jayne Hindle 氏率いた素晴らしいイベント運営チーム(East Coast Conferences)にも感謝します。熱意あふれるチームに支えていただき本当に幸運でした。今後も変わらぬ協力関係の構築を願っています。

本会合の広報(Comms)担当の PIANC AU-NZ 部会 YP の Jess Wood 氏及び HeadNorth Films 社の Daniel Turner 氏に感謝します。

全てのスポンサー企業と出展企業の皆さまにも深く感謝申し上げます。特に、プラチナスポンサーの Aurecon 社, McConnell Dowell 社, Port of Brisbane(ブリスベン港), Trelleborg 社, 及びゴールドスポンサーの Arup 社, Haskoning 社, KBR 社, WGA 社, シルバースポンサーの Actemium 社, Aspec 社, AW Maritime 社, Boskalis 社, Hatch 社, Jan de Nul 社, Shibata Fender Team 社, SMEC 社 皆さまに感謝いたします。

沿岸・港湾・海洋コミュニティのサポーターである全てのスポンサーの皆さまのご協力なしには本会合を成し遂げることはできませんでした。最後に、遠方からご出席の **Francisco Esteban Lefler** PIANC 本部長と **Todd Bridges** 教授に深く感謝いたします。最後に Todd 教授からのオンライン・コメントを紹介いたします！

「これほど有意義かつ大成功を収めた会合を開催した PIANC AU-NZ 部会に対し心から祝意を表します。実に見事な運営でした」



NordPIANC 2026 会合の開催により,PIANC コミュニティがタリンに集結！

2026年9月9日から11日にかけて、[PIANC エストニア部会](#)はタリンにて「NordPIANC 2026」会合を主催するという栄誉に浴しました。本会合には、北欧・バルト地域内外から、専門家、技術者、港湾関係者、研究者、公的機関及び海上インフラのプロフェッショナルたちが一堂に会した。



我々は、[PIANC 本部](#)の事務総長 [Geert Van Cappellen](#) 氏を本会合にお迎えできたことを大変光栄に思うとともに、同氏の出席は、PIANC コミュニティ内における国際協力の重要性を改めて確認するものになった。

また、エストニア気候省([Kliimaministeerium/Ministry of Climate of Estonia](#))海事・水資源担当事務次官補である [Kristjan Truu](#) 氏に出席いただいた。同氏には、エストニアの海事セクターに関する戦略的な展望を交えてセミナーの開会宣言を行っていただいた。

3日間にわたり、タリンは港湾・水路・海上インフラ・海岸工学・航行及び持続可能な水上交通の未来に関する議論の交差点となった。会合プログラムとしては、以下のテーマに関する専門セッションが実施された。

-  持続可能な港湾インフラ、資材、及び建設
-  デジタルツインと港湾に係る意志決定支援ツール
-  港湾、エネルギー及び海上インフラ
-  海洋環境、航行、リスク分析及び沿岸開発



今回の NordPIANC の大きな特徴の一つは、セミナーのうち1日をより幅広い範囲でエストニアの海事コミュニティにも開放したことである。この取り組みにより、新しい団体や企業、専門家の方々に PIANC ネットワークを紹介する貴重な機会を提供することができた。

今回の会合では、この他に「エストニア海事博物館でのウェルカムレセプション」「若手技術者による交流会(Young Professionals Get Together)」「タリン旧市街のガイド付きウォーキングツアー」及び「タリン旧港(Old City Harbour)とタリン湾のテクニカルプログラム」も実施した。

NordPIANC 2026 を大成功させ、刺激的なイベント開催に向けて貢献いただいた全ての登壇者、モデレーター及び参加者の皆さまに心から感謝申し上げます。

本会合のパートナーおよびサポーターである次の皆さまに深く感謝します。

•エストニア気候省([Kliimaministeerium/Ministry of Climate of Estonia](#)) •エストニア交通
庁([Transpordiamet - Estonian Transport Administration](#)) •タリン港([Port of Tallinn](#))
•[Top Marine](#) 社 •[Infragreen OÜ](#) 社 •タリン工科大学 Smart Sea Centre of Excellence
([TalTech Smart Sea Centre of Excellence](#))

エストニアで再び NordPIANC を開催できたことを誇りに思うとともに、PIANC コミュニティ内での国際協力の強化の機会を得られたことに感謝します。これからもつながり、共有し、持続可能な海事の未来を築いていきましょう。

本イベントの開催模様・写真は [こちらから！](#)

PIANC エストニア部会

第 4 回 PIANC-HTG(独港湾技術協会) フォーラム開催(2026.9.17)

PIANC とドイツ港湾技術協会(HTG: Hafenbautechnische Gesellschaft)では、2026 年 9 月 17 日に第 4 回となる合同バーチャル会合を開催した。

「ターミナルの挑戦(The Terminal Challenge)」とのテーマにて、本会合では、現代の港湾及び貨物積替インフラの開発状況や、直面する将来の主要な課題に関する議論を行った。

最初に港湾の積替施設の規模検討、設計、及び運用に係る実践的な提言・推奨事項を提供している PIANC WG 186 の成果に焦点を当てた。HPA Polder Hamburg 社の Ralf Bartholomä 氏の夏のこもったプレゼンテーションに深く感謝します。

続いて、気候変動、交通量の増加、及び一層複雑化する物流チェーンを背景として、強靱性があり適応力のあるターミナルコンセプトへの要求事項に対応した PIANC WG 213 の成果について、ShibataFenderTeam(SFT)社の Jan-Christoph Schoeler 氏からの発表があった。貴重なご講演をありがとうございました。



HTG の港湾積替技術専門委員会(Technical Committee on Port Transshipment Technology)からコンテナクレーンの自動化についての報告があった。発表では、既存のターミナルプロセスへの統合、安全性、標準化、及び費用対効果に至るまで自動化システムの導入の際の技術開発、運用経験及び課題を網羅するプレゼンであった。

また、HTG の荷役車両専門委員会(Industrial Trucks Technical Committee)は、港湾ターミナルにおける自動化システムの効率的かつ柔軟、将来にわたり有効なネットワーク化を実現するため、オープンスタンドードと相互運用性が、なぜ極めて重要なのかを強調した。

議論

その後のディスカッションでも、これらの課題が全ての参加者にとり非常に関心の高いテーマであることが示された。

約 55 名が参加した 4 回目の本イベントは、今回も大成功を収めました。既に 2027 年に開催される次回フォーラムがを期待されています。

本会合に関する全ての情報は、PIANC ドイツ部会のウェブサイトにて公開される予定です。

<https://pianc.baw.de/>

Gabriele Peschken
PIANC ドイツ首席代表

PIANC 英国部会 若手技術者セミナーを開催



2026 年 9 月 14 日(月), PIANC 英国部会は, 英国土木学会(ICE: Institution of Civil Engineers)にて, 大勢の参加者を集め, 非常に興味深いセミナーを開催した。

PIANC 英国部会の年間行事の中でも最も活気のあるイベントの一つである「若手技術者(YP)年次セミナー」は, ロンドンの英国土木学会の会場の立ち見が出るほどの満員御礼(packed house)となった。Haskoning 社の Fiona Crabtree) 氏が本イベントの議長を務めた。

今年のセミナーでは, 幅広い分野のプロジェクトやテーマを網羅し, 簡潔ながらも示唆に富む一連のプレゼンテーションが実施された。登壇者からは, 英国のネットゼロという野心的な目標達成のための既設の老朽化港湾インフラの転換, 岸壁設計を自動化する革新的なアプローチ, Blackpool 海岸における海岸工学面からの環境配慮(environmental stewardship)の役割, 岸壁の安定化, 及びエジプトにおける大規模な沿岸開発での地盤工学的な現場施工管理という幅広いテーマについての洞察に富むプレゼンがあった。

本セミナーは, 若手技術者が広範な聴衆に向け自らの専門知識や経験を共有するプラットフォームとなるべく企画されており, 貴重な技術的知見, 実践的な教訓, そして専門的な議論の機会が提供された。参加者は, イベント前に提供された軽食を交えて同僚や業界専門家との交流を深め, イベント後のネットワーキング・レセプションでも対話が続いた。

セミナーには, 様々な組織に所属する 5 名のスピーカーから, 各自の携わった魅力的な港湾・海事関係プロジェクトの経験について講演を実施した。

- Jishnu Warriar 氏, Jacobs 社(ports and maritime engineer)
Blackpool 海岸の管理-エンジニアとして考慮すべき環境影響の対象(Blackpool Beach Management - Considerations of Environmental Receptors as an Engineer)
- Frederick Linley 氏, Royal Haskoning 社(geotechnical engineer)
エジプトの運河-現場施工管理の取り組み(Egyptian Canals - Site Supervision Actions)
- Greg Jackson 氏, Haskoning 社(senior graduate maritime engineer)
ブロック式岸壁設計の自動化-方法から実装まで(Automating the Design of Blockwork Quay Walls - From Methodology to Implementation)
- Mithun Praveen Subramaniam 氏, Mott MacDonald 社(maritime engineer)
レッドカー・バルク・ターミナルの改良・再整備-英国ネットゼロの未来に向けたレガシー岸壁の転換(The Redcar Bulk Terminal Upgrade - Transforming a Legacy Quay for the UK's Net Zero Future)
- Alvaro Garcia 氏, Beckett Rankine 社(assistant maritime engineer)
リダム・ドック東岸壁-安定化と補強(Ridham Dock Eastern Berth - Stabilisation and Strengthening)

[Nigel Bode](#)

PIANC 英国

プレスリリース
2026 年 9 月 2 日



航路・港湾の計画・設計のための 船舶航行シミュレーション

(Ship Handling Simulation Dedicated to
Channel and Harbour Design)

海港委員会 (MarCom) WG 171

価格：非会員 258 ユーロ／会員 無料 (204 頁)

<https://www.pianc.org/publication/ship-handling-simulation-dedicated-to-channel-and-harbour-design/>

船舶航行シミュレーションは、既設の水路やアプローチ航路における航行性／交通容量の評価・確認、及び水路・アプローチ航路の計画段階における設計評価のための手法として、既に十分に確立されているもので、幅広く実務に用いられています。1992 年に、PIANC の WG 21 により本テーマに関する報告書が公表されています。その後、30 年が経過したことも踏まえて、当時のレポートの更新、内容を補足することは有意義であると判断されました。少なくとも、この間に顕著な発展を遂げた技術開発を考慮する必要性だけではなく、船舶航行シミュレーションの適用対象となる新たなアプローチや取り組むべき対象課題の変化もあったためでもあります。

この WG 本報告書には、二つの面からの有用性があります：一つ目は、計画・設計面からの評価・確認のための船舶航行シミュレーション検討を実施する際の最新手法に関する参考資料としての役割です。ここには安全面からの証明及び通航面からの航行容易性の確認も含まれます。二つ目は、水路の確認業務に携わる専門家であるが、船舶航行シミュレーションに関する経験が少ない、又は経験が皆無の専門家の方々向けの入門的な手引書としての役割です。

そのため、本 WG 報告書は、水路・航路の調査・検査のために船舶航行シミュレーションの準備から実行していく際の確立済の作業手順に則り、段階的に構成されています。各段階について明確かつ詳細な説明の記述及び、ベストプラクティスに基づいた十分な証明がある指針も追加されています。

執筆者グループは、本 WG 報告書が読者にとり有益なものとなること、少なくとも今後 10 年間にわたり、水路、アプローチ航路および港湾の計画・設計における船舶航行シミュレーションの活用に関する参考資料として役立つことを期待しています。